

一般社団法人「国際教育研究コンソーシアム」

<2024 年度事業報告>

2024 年度は、主として国際教育夏季研究大会 (SIIEJ) 2024、トヨタ財団助成事業に取り組んだ。

I. 国際教育夏季研究大会 (SIIEJ) 2024

国際教育夏季研究大会 (SIIEJ) 2024 は、8 月 7 日 (水)・8 日 (木) の二日間で立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された。申込者数：354 名 来場者数：約 280 名で、過去最高の会場参加が得られた。大学の垣根を越えて国際教育にかかわる専門的知見の共有や意見交換を目指して開催してきたが、大会テーマ「国際教育が牽引するダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン」に基づいて多面的な情報交換、ディスカッション、ポスターセッションなどを行うことができた。詳細報告は以下にまとめる。

大会テーマ:国際教育が牽引するダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン

実施日 2024 年 8 月 7 日 (水)・8 日 (木)

会場:立命館大学大阪いばらきキャンパス (OIC)

主催 一般社団法人 国際教育研究コンソーシアム (RECSIE)

共催 大学の国際化促進フォーラム・立命館大学 RARA・関西国際大学ほか

後援 文部科学省・特定非営利活動法人 JAFSA (国際教育交流協議会)・一般社団法人 大学行政管理学会・NPO 法人学校経営研究会・大学マネジメント研究会・留学生教育学会 (JAISE)・BRIDGE Institute・The International Academic Forum (IAFOR)・一般社団法人海外留学協議会 (JAOS)・日本認定留学カウンセラー協会 (JACSAC)

<8 月 7 日>

Workshop A 09:00-12:00

留学生のメンタルヘルス

登壇者：大西晶子

Workshop B 09:00-12:00

身体的アプローチから学ぶ異文化受容とストレス・マネジメント

登壇者：荻野 NAO 之・秋庭裕子

Workshop C 09:00-12:00

学校で働く人のためのワークショップー多様な学生たちと接する中での「困りごと」を共有し、解決策を考えようー

登壇者：高智子・中井好男・荻田朋子・津坂朋宏

Session 1 09:00-10:20

国際教育で育む異文化感受性：多文化環境での対話的で深い学びのために

登壇者：BRIDGE Institute メンバー

Session 2 09:00-10:20

日本語教育と大学学部・大学院の接続・連携ー留学生別科の再生は可能か？ー

登壇者：二子石優・白石勝己・三澤勝

Session 3 09:00-10:20

国際教育による学生のアウトカムとは？ーなにをどのように測るのかー

登壇者：西谷元

Session 4 10:40-12:00

初等中等教育における国際教育最前線：大学に期待されるものとは？

登壇者：堀江未来・三ツ木由佳・中西美佐

Session 5 10:40-12:00

海外派遣留学の危機管理

登壇者：星野晶成・小椋裕子

Session 6 10:40-12:00

海外留学をめぐる階層格差と社会的公正ー国際教育交流担当者の役割を考える

登壇者：太田知彩

オープニング・イベント | Opening Event

13:00-13:20

主催者挨拶

登壇者：芦沢 真五 関西国際大学 副学長 国際コミュニケーション学部 教授

開催校挨拶

登壇者：中戸祐夫 立命館大学副学長・国際部長(国際関係学部教授)

13:20-14:10

「高等教育の国際化を考える」"Thinking about Internationalization of Higher Education in Japan"

登壇者：佐藤邦明 文部科学省高等教育局参事官(国際担当)

特別セッション I Venue: 301

「国際教育が牽引するダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン」

14:20-15:20

基調講演「多様性を尊重するという曖昧さ：異文化感受性発達理論からひも解く」

登壇者：メーカー亜希子 インターカルチュラリスト プリンシパル

15:30-16:30

パネルディスカッション

ファシリテーター Facilitator: 堀江未来 立命館大学グローバル教養学部 教授

<8月8日>

Workshop D 09:00-12:00

「国際共修ループリック」を使いこなす

登壇者：末松和子・北出慶子・村田晶子・水松巳奈・小嶋緑・湊洵菜

Workshop E 09:00-12:00

DEI(Diversity, Equity & Inclusion)マインドを涵養する国際教育実践：異文化感受性発達理論から考える

登壇者：メーカー亜希子・堀江未来・平井達也

Workshop F 09:00-12:00

国際教育の成果の証明ー世界展開力/国際センター/科研など異なるレベルでどのように測定手法を導入できるのかー

登壇者：市村光之・高城宏行・小早川裕子・蒙韞(韞)・中村絵里・西谷元

Session 7 09:00-10:20

次世代型実践としての「ブレンデッド・モビリティ」ー オンライン国際教育実践とモビリ

ティの有機的配合を考える

登壇者：池田佳子(Keiko Ikeda)・ドン バイサウス(Don Bysouth)・アイシャ トリ
アスタリ(Aisyah Tri Astari)・眞鍋均之介(Kinnosuke Manabe)

Session 8 09:00-10:20

派遣留学生の帰国後のケアとキャリア形成のためのフォローアップ

登壇者：高濱愛・田中共子

Session 9 09:00-10:20

留学生のための性教育～ライフプランを考える

登壇者：高向有理

Session 10 10:40-12:00

外国人留学生の就職問題について考える

登壇者：古沢昌之

Session 11 10:40-12:00

ユーチューブを活用した国際教育の推進・学術的で魅力的なコンテンツの制作

登壇者：チェンドム・アンドレア (Andrea CSENDOM)・岡田昭人(Akito OKADA)

Session 12 10:40-12:00

酒蔵ツーリズムが繋ぐ、産官学連携による交換留学生キャリア支援の試み

登壇者：阿部仁・田口義和

特別セッション II | Special Session II

13:00-15:00

「大学の国際化促進フォーラム」特別セッション

「大学の国際化が生み出すソーシャル・インパクト:JVC と大学の国際化促進フォーラムのネクスト・ヴィジョン」

司会 Facilitator: 山下範久 事務局幹事校 学校法人 立命館 常務理事

13:00-14:00

「大学の国際化促進フォーラムの展望と国際化に対して果たす役割や期待」

司会 Facilitator: 池田潤 Jun IKEDA | 副代表幹事校 筑波大学 副学長

登壇者：

芦沢真五 Shingo ASHIZAWA | RECSIE 代表理事/関西国際大学副学長

森下哲朗 Tetsuo MORISHITA | 上智大学(JAFSA 会長校)グローバル化推進担当副学長 / 法学部 国際関係法学科 教授

山科裕司 Pierre Yamashina | 兼松株式会社 上席執行役員 人事総務担当

庄秀輝 SHO Hideki | 日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部 本部長 JETRO Osaka, Director-General

14:00-15:00

「日本の高等教育についてのマイクロレデンシャル(MC)の展望

～アドバンスドプレイスメント(AP)など多様な活用へ向けた課題～」

司会 Facilitator: 大庭良介 Ryosuke Ohniwa | 筑波大学 JV-Campus 連携室・室長 教育推進部・教授

登壇者：

池田佳子 Keiko IKEDA | 関西大学 国際部教授 グローバル教育イノベーション推進機構 副機構長

JIGE(大学の世界展開力強化事業 2023-2027) 事業総括担当代表

飯吉透 Toru Iiyoshi | 京都大学 学術情報メディアセンター 連携研究部門教授 (教育イノベーション分野)

兼任:大学院教育学研究科教授(高等教育学コース)

井上雅裕 Masahiro Inoue | 慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授

佐藤邦明 SATO Kuniaki | 文部科学省高等教育局 参事官(国際担当)

15:00

閉会挨拶

登壇者：末松和子 Kazuko SUEMATSU | 東北大学 副理事(国際交流担当)高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 副センター長

II. トヨタ財団助成事業 (2024 年度の取り組み)

＜成果・発見など＞

2024 年度においては、前年度に引き続き 2 件の調査のフォローアップ調査、在住外国人のキャリア形成にかかわる課題とニーズ分析を行ってきた。

A) 難民認定申請者の学修歴資格と就労に関する分析

B) 在日ネパール人の学修歴資格と就労に関する調査

この調査結果においては、定性分析が不十分なため、2024 年度においても在留外国人のキャリアにかかわる個別インタビューを継続した。なお、本プロジェ

クトが開始された 2021 年から比べると、特定技能 1 号、特定技能 2 号という在留資格を持つ外国人が増え続けており、特定技能 14 業種では一定の評価基準が確立されようとしている。ただ、それ以外の分野や業種では、国際的に通用するような資格基準に基づいて外国籍の方々の資格・学歴を評価する手法が日本で確立しているとはいえない。本プロジェクトが目指す「日本型 NQF」を活用した FCE（外国学歴評価：Foreign Credential Evaluation）を日本で運用していくことの意義がより高まったと考えられる。

＜今後の展望＞

本プロジェクトは、個別ヒアリングと提言の準備が遅れたため、2025 年度末を目標として期間を再延長し、アクション・プラン、政策提言を行っていく予定である。外国人材が自己の学修歴資格を的確に評価してもらえるような社会インフラの一環として、合理的に履歴を評価する手法についても確立していく。

最終的な報告書（アクションプランと政策提言）をとりまとめて、一冊の書籍とするべく、2025 年度において出版準備をすすめている。

以上